

ごみを分けて再資源化

小学校でSDGs授業

東北大と東松島市が連携

東北大学と東松島市主催の「産学連携SDGs（持続可能な開発目標）出前授業」が12日まで市内6小学校で行われている。6月28日は赤井小と鳴瀬桜華小であり、東北大学大学院の劉庭秀教授が廃プラスチックの適正処理や再資源化などを伝えた。



子どもたちがプラスチックについて学んだ

出前授業は身の回りで起きている社会問題をSDGsの視点から学び、解決方法を考え、もう一つかけしよと企画。プラスチックの皿を扱う民間企業、再資源化に取り組み県担当者などが協力した。

劉教授は世界の廃プラスチック発生量で「1980年の0.5億トンから2015年までに6倍まで増えた。先進国でストローやレジ袋など使い捨てのものを「使いすぎた」と指摘。開発途上国でも使い捨て容器の使用料や排気量が増加しているとした。

その上で、身近なプラスチックを材料とするペットボトルの分別では「キャップとラベルは別素材で、それぞれ再利用の用途が異なる。中には素材を一目で判断できないものが

あり、分別の時は表示を確認してほしい」と呼び掛けた。

授業では、鉄や銅の再資源化、トウモロコシを使用したプラスチック製品なども現物で紹介。廃車の再資源化では「車体は鉄、部品は銅、内装はプラスチック。高級車のサイドミラーには内部にモーターがあるため、安価な車の方がリサイクルしやすい」などの豆知識も披露された。

赤井小4年の深堀翔さんは「SDGsのことがよく分かった。分別をあまり知らず、プラスチックを燃えるごみに入れていた。世界を大切にできるようSDG

sに取り組み」と話していた。出前授業は7月11日に矢本西と宮野

県職員研修会で伊丹女川副町長 「今は震災と次の災害の間」 後輩に記憶と教訓継承

県職員OBである女川町の伊丹相治副町長が6月24日、県右巻台同庁舎で講話し、後輩に当たる職員に11年3カ月が過ぎた東日本大震災の体験を伝えた。

共につくろう、
笑顔あふれる地域。
あなたの、あしたを、あたらしく。
宮城創価学会
[石巻文化会館]石巻市大街道北3丁目6-101 TEL.0225-22-1740



講話する伊丹副町長